

メタアナリシス

文献

Koinuma M, Narikawa H, Kamei M, et al. Meta-analysis on the usefulness in postpartum control by Kyukichoketsuin with Methylergometrine Maleate as control. 日本東洋医学雑誌. 2006; 57: 45-55. 医中誌 Web ID: 2006097925 CiNii

1. 目的

メタアナリシスを実施し、産褥管理におけるキュウ帰調血飲 (KCL) の有効性を、マレイン酸メチルエルゴメトリン (MME) と比較し評価すること

2. データソース

医学中央雑誌 (1983-2004)、Medline (1966-2004) でキュウ帰調血飲 (kyukichoketsuin)等をキーワードに文献を検索・収集

3. 研究の選択

試験の採用基準は、1) RCT、2) 原著論文、3) 正常分娩の初産婦と経産婦による産褥婦の試験、4) KCL を介入薬とし MME をコントロールとした試験、5) 治療効果の指標を子宮底長、乳汁分泌、後陣痛の重症度などに設定している試験

4. データの抽出

データの抽出は、データの統合を行った研究者とは別の研究者によって、独立して行われた。抽出されたデータは、対象患者の背景、サンプル数、ランダム化の方法、盲検化の方法、調査薬とコントロールの投与方法、投与量、一日の回数、投与日数、併用した薬剤、試験のエンドポイント、であった。エンドポイントのデータが数値でなくグラフで示された場合は、グラフを計測し数値化した。選出された論文の質は Chaimers のスコアシステムによって評価された。

5. 主な結果

44 論文が収集され、採用基準を満たしているものは 5 論文、うち 1 論文は重複のため除外。最終的には 4 論文が解析の対象となり、これらの論文の質は同等であった。後陣痛を評価した 3 論文の結果、KCL が MME に比べ、有意に後陣痛を減弱させた {統合 odds ratio: 0.32 (95%CI, 0.17~0.60)}。子宮底長については、1 論文で分娩 5 日目に KCL が統計学的有意を認めたが、統合により有意差を認めない結果となった。また分娩 4 日目の子宮底長は、論文同様、統合によっても有意差を認めなかった。よって子宮復古に対する KCL の効果は MME と同等と考えられた。分娩 4 日目の乳汁分泌量の比較では有意差を認めなかったが、KCL、MME 双方の乳汁分泌量が多いとした論文が存在したため統合すると、KCL による乳汁分泌量が有意に少ないことがわかった {統合 odds ratio: -8.20 (95%CI, -16.17~-0.23)}。分娩 5 日目の乳汁分泌量を統合した結果は有意差こそ認めなかったが、KCL による乳汁分泌量が多く、乳汁分泌に対する KCL の有効性は MME に劣るとも考えられなかった。

6. 結論

KCL は後陣痛の減弱において MME に比べ有効であることが示されている。今後は安全性も含めた解析が必要である。

7. 漢方的考察

なし

8. 論文中の安全性評価

記載なし

9. Abstractor のコメント

RCT に限定したメタアナリシスが漢方薬で実践されことをまず評価したい。メタアナリシスでは関連する試験を漏れなく収集できたかどうかはひとつのポイントなので、その努力の過程をより詳細に記述すればもっと良かった。検索チームが網羅的か、教科書、参考書、専門家の意見等も含めハンドサーチされているかなどである。漢方領域での EBM 推進を考慮すると著者らの試みは画期的である。これを機に、漢方薬のメタアナリシスやシステマティック・レビューが増えることを期待する。

10. Abstractor and date

鶴岡浩樹 2009.2.19, 2010.6.1